特別対談

福留善秀（ふくどめよしひで） × 田上重憲（たのうえしげのり）

全日本モトクロス選手権
IA1クラス
Dream Honda RT Fukudome所属

熊本県立翔陽高等学校校長

６年ぶりの母校。翔陽高校の特徴でもある「総合学科」が福留選手にもたらしたもの。それは田上校長との対談で分かった広い知識と「本気」。

翔陽高校で得た多角的な視点

福留選手（以下、福留）　高校へは３年間、実家の熊本市から翔陽高校まで約20キロを自転車で通っていました。だから、ライダーのなかでも僕は下半身が強い方なんですよ。野球をやっていたことも、今プラスになっています。

総合学科が良かったことは、メカニクス系を専攻しても、農業など違うことができたこと。やりたいことが何でもできる。それはとても楽しかったですね。

田上校長（以下、田上）　うれしいですね。総合学科は、広く学んで、自分の適性や能力を探して伸ばしてもらうのが目的です。その一番理想的なパターンが福留選手だと思います。

「自分の適性を探したらその後は、伸ばす」ということを生徒たちにも教えていきたいですね。

福留　トレーニング方法でも、モトクロスだけではなく、転倒したときのために柔道をやったり、足腰の鍛錬やゲームの組み立てのためにサッカーをやったりしているんです。

翔陽高校で学んだことで、何かと何かを関連付けて考えることやいろんな角度からものを見ることができるようになったんです。それは、今の自分にとても役立ってますね。

田上　福留選手も「もともと才能があるから成功したんだ」ではなく、毎日こつこつと頑張ったから自分の力を発揮できたんだと思います。限界を超えた「本気」があったからできたんでしょう。もし、それにプラスして「総合学科」が手助けできていたのなら、うれしいですね。

総合学科で学んだことが
今の自分を創（つく）っている

走るだけじゃない、今後のモトクロス業界を背負っていくという義務感

田上　これからのモトクロス業界はどうなると思いますか？

福留　景気の影響もあり厳しくなると思います。僕たちは走るだけじゃなく、僕たちの走りをみて、ライダーにあこがれて、バイクが欲しくなるように頑張らないといけないですね。バイクに興味が無い人に興味を持ってもらいたいですね。そのために活動をしないといけないと思います。

田上　例えばどんなことを考えていますか？

福留　ＨＳＲ九州には、レンタルバイクがあります。これは全国的にも珍しいんです。これを使ってモトクロスを知ってもらおう、モトクロスの楽しさを教えようというスクールを考えています。

田上　それは、バイクに乗っている人を対象に考えているんですか？

福留　レンタルバイクは施設内なのでライセンスも要らないんです。免許を持っていない子どもやバイクを持っていない人などいろんな人を対象に考えていますね。

田上　それは楽しみですね。

これからも、翔陽高校の卒業生としてぜひ頑張って欲しいと思います。今日はありがとうございました。

福留　こちらこそ、ありがとうございました。

総合学科は広く浅くじゃない
自分に必要なものを探すためにある

Topic

後輩に伝える本当の「本気」

３年生の坂本祐太（さかもとゆうた）くんは福留選手を目指すＩＢクラスに出場するライダーだ。

坂本くんの悩みや聞きたいことの相談を受けて、「まだ今は親に頼るしかない。親がいるから活動できるのだから、親が納得するまで本気を出せ。今まで以上の危機感を持って１年とか期限を決めて『本気』でやってほしい」と語る。坂本くんの走りには、まだまだ「本気」が感じられない。もっと限界を攻めてほしい。と言う。それは、自分が苦労したからこそ言える言葉だった。

Profile

福留善秀 *Yoshihide Fukudome*

1984年　7月20日生まれ　熊本市出身
1998年　デビュー
2001年　全日本選手権　125ccクラス　16位
2005年　全日本選手権　IA２クラス　シリーズチャンピオン
2008年　全日本選手権　IA１クラス　10位

翔陽高校には、2000年～2002年に在校。2007年はアメリカに渡り、スーパークロスに参戦。2008年は全日本に復帰。第7戦東北大会IA1クラス（最高峰クラス）で見事初優勝を獲得した。